

小児科を受診し、インフルエンザ検査を受けられた患者さんへ

インフルエンザワクチンはインフルエンザ予防の基本ですが、その予防効果は一定せず、接種する方の年齢や流行するウイルスの型によっても毎年異なります。また、最近ワクチン効果が低下しているとも言われています。

そこで今回、実際のインフルエンザワクチンの効果を明らかにするために、「小児（科）患者におけるインフルエンザワクチンの効果」について、慶應義塾大学小児科およびその関連施設と共同して調査研究をおこなうことになりました。これによりワクチン効果を正確に知ることができ、今後のインフルエンザ予防策に有用な情報が得られると考えています。

調査の対象は、2023年9月30日までのインフルエンザシーズンに38℃以上の発熱のため小児科を受診され、インフルエンザの疑いでインフルエンザの迅速検査を受けられた患者さんです。この調査では、対象となる患者さんのカルテ（診療記録）から下記の情報を集めます。通常の診療でもお聞きし、記録する項目ですので、新たな質問および追加の検査や治療はありません。

- ① 患者基本情報（年齢、性別、基礎疾患の有無、渡航歴の有無、等）
- ② インフルエンザワクチン接種歴
- ③ 臨床経過
- ④ 臨床検査結果

集めたデータは個人が特定されない形で慶應義塾大学小児科に送り、他施設のデータと一緒に集計・解析されます。氏名や生年月日などの個人情報当院外にでることはありません。研究成果は学会発表や論文発表、報道などで公表されることがありますが、その際も個人が特定できない形で行われます。

○この調査研究は慶應義塾大学および当院倫理委員会の承認を受けています。

○この調査にご自分またはお子様の診療記録を使ってほしくない方はお申し出ください。その際も不利益を受けることはありません。

○本調査研究に関するご質問などがあれば、下記へご連絡ください。

2021年3月

研究責任者：小児科 前田 直則
国立病院機構東京医療センター 小児科
〒152-8902 目黒区東が丘 2-5-1
TEL 03-3411-0111 FAX 03-3412-9811